
聖闘士deボエム

Glaray

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

聖闘士deボエム

【NZコード】

N6896Y

【作者名】

G1array

【あらすじ】

聖闘士星矢のキャラを題材にして作ったボエム集みたいなものです。

気が向くままに投稿するので、たぶん不定期更新となります。

花が散つたなら……

はい、「聖闘士d e ポエム」、始まりました。
これは私の思いついた、聖闘士をネタにした詩を書いていくコーン
ナー（？）です。

物好きな方、駄文で良ければ是非見てください。
もし、「冥闘士とか海闘士をネタにしろ！」といふ意見・要望な
どございましたら気軽に言つてください。
採用する…かも知れません。

さて本編です。

今日のは結構前に思いついたやつです。
誰のことなのか… すぐ分かりますよね？（笑）

「花が散つたなら……」

死は永遠なのか
いや、それすら変化の一つに過ぎない
生は虚しいだけなのか
いや、それを語れる程分かりきってはいなかつた

数珠を一つ爪繰れば

塵と消えよ、我が煩惱の犬

今こそ歩めようか、

光ある寂靜の世へ

ああ、私の目に

白き花が散り初めるのが見える…

もう一度…

今日はポエムってか若干リリックっぽいかも。

「もう一度…」

傷ついた翼では

目指していく明日までは飛んでゆけない
視界が涙で閉ざされている
もう、立ち上がれないんだ

失くすものなんないと 強がっていた昨日は
どこに行ってしまったのだろう

一人 冷たい夜の中うなだれている
残り火も燃え尽きて 冷たい中 一人…

聞こえてきたのはあの日の歌

あなたの声

ひびの入った心を埋めてくれる

そうだ、思い出したんだ

自分が信じられるもの

全てを敵に回しても

あなたを信じている俺 それだけは敵じゃない

もう一度 拳を握りしめるんだ
もう一度 力を振りしぶるんだ
神だつて敵に回しても

あなたを信じている俺 何も怖くはないはずだ

天界編序奏とかMAKE-UPさんの「Try Again」とかを思い出しつつ書いてました。タイトルもそれっぽい感じでしょ？（笑）

もちろん星矢をテーマにしました。
まあありそうなポエムですけどね。

ところでなんですが、ミーノスについてのポエムを作りました
ら、どうしても某メタルバンドの歌詞っぽくなってしまうんです…
（汗）「情熱のゲームも終わりだ」とかいつて。知っている方。
そうですねあの曲です！知らない方、興味があればググってみて下さい。多分「情熱のゲームも終わりだ」で出ます（笑）。

Mirror Dimension

今回のは結構シリアルス系です。
舞台「教皇の間」ということだ。

「Mirror Dimension」

鏡は碎け散る

迷宮は消え去つたのだろうか

私の「真」は碎けてはいない

聖性か邪悪か

未だにそれは分からぬけれども

涙を流しているその訳を教えてくれ

それとも お前が私自身だから

答えられはしないのか？

私は仮面を二重に被り
己自身を見つめている

無限の回廊に迷える「」が見える

眼を閉じたなら

狭間に潰れそうな己が見える

消え去る事が浄化になるのか

贖罪とは何なのだ

答えてくれる鏡よ鏡

お前はもついないのだな

善悪の狭間に悩めるアノ人を題材にしました。

実はこれ改変版で、改変前のものを書いた紙があつたのですが、
どつか行つた + その内容があまり思い出せないので雰囲気（？）を
頼りにほぼ一から作りました。

その紙には他にたくさんポエムが書き留めてあつたので、なくし
て残念です…

凍り付いた記憶

雪の降る寒い季節となつて参りました。
今日はそれを思いながら作つてみたやつです。

「凍り付いた記憶」

田を凝らしても 其処に貴女の姿を認められない
光の一筋さえ届かない深みの内
想い出は 沈められたんだ

けれど 消えはしない
色褪せはしない
凍り付いたあのときの中
花は散らないまで
美しさを留めたままでいるのだから
俺がすがりつくのは 今という時じやない
氷海の底 永遠に行つてしまつたあの瞬間

消えはしなかつたもの
色褪せはしなかつたもの
凍り付いたあの時から
それよりずっと前から抱いていた
融けた氷のような俺の心
俺がすがりつける 自分の強さなどない

季節の中 置を抜つられた夢幻（ゆめあわい）

マークへの想いを断ち切れないでいる氷河をマークしてみました。

氷河はマザコンだマザコンだと言われていますが、私は氷河とマークの話好きなんですよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6896y/>

聖闘士deポエム

2011年11月23日13時46分発行